

特別優秀賞

この一言から始まる

千葉県 七林中学校 一年
赤峯 心

父の仕事の関係で、私は年少のときに千葉に引っ越してきました。エレベーターのないマンションの4階だったので、当時の私には、階段の上り降りはひと苦労でしたが、新しい家やこれからの暮らしに胸が高まっていました。

数日後、クーラーがまだ取り付けられいなかったので、夕方からエアコン業者さんが来ることになっていましたが、^{はんぼうき}繁忙期だったこともあり、予定より遅い時間帯になってしまいました。

工事が始まると、突然家のチャイムが鳴り、出てみると知らないおばあさんが立っており、「うるさい。」

と引っ越し早々苦情を受けてしまいました。

知らない人に怒られたショックで、私はその日から、おばあさんの事が少し苦手になってしまいました。

それから数年が経ち、私が小学校から帰ってくると、1階でちょうど買い物を終えたおばあさんといっしょになってしまいました。おばあさんは車輪のついたカートを持ち上げて、一段ずつ手すりをつかみながら、ゆっくり階段を上っていました。

私はおばあさんに苦手意識を持っていたので、あいさつだけして通り過ぎようと思いましたが、数段上っては休憩をしているおばあさんを見て、いてもたってもいられず、

「荷物を持ちますよ。」と伝えました。

おばあさんは一度断りましたが、荷物を運んで家の前に着いたときには、とても感謝してくれました。

次の日、私が学校から帰ると、お母さんが嬉しそうに私を待っていてくれました。どうしたんだろうと思ったら、お母さんが、

「あなたは立派な子ね。」と言ってくれました。

私は何のことかわからず、ふと机の上を見ると、お菓子が数個置いてあるのに気づきました。なんだろうと思いながらお母さんに聞くと、きのう私が荷物を運んであげたおばあさんが、お礼にとお菓子を持ってきてくれたそうです。私は、嬉しくてたまりませんでした。

あんなにゆっくりと、手すりにつかまりながら上っていたおばあさんが、お礼を言うために、わざわざ4階の私たちの家まで来てくれたのです。

私はあのとき、声をかけて行動することができて、本当に良かったと思いました。

あたりまえな行動でも、もしかしたら、他人にとってはそれが必要な助けであり、小さな親切になるかもしれません。私は、これからも小さな親切を積み重ね、人に優しくできる大人に成長していきたいです。